

全国



第 2199 号

ぜんこくしぎかいじゅんぽう

市議会旬報

令和4年 7月25日
(2022年)毎月3回5の日に発行
発行 全国市議会議長会〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
代表 TEL 03 (3262) 5234
旬報 TEL 03 (3262) 2309
発行人 橋本 嘉一
https://www.si-gichokai.jp

議長会HP

プラごみ問題特別委員会

プラごみ問題 論点を整理

本会の「海洋プラスチックをはじめとするプラスチックごみ問題に関する特別委員会」（以下「プラごみ問題特別委員会」）。委員長 大川裕小田原市議会議長は7月7日に全国都市会館で第1回委員会を開催し、プラスチックごみ問題における論点を整理した。翌8日には、小田原市でプラスチックごみ問題に係る現状と取り組みなどについて現地調査（2面）を実施した。

大川海洋プラごみ問題
特委委員長(小田原市)

7月7日に開催された委員会では、冒頭あいさつで大川委員長が「プラスチックは、その優れた特性から、我々の生活に多くの便益をもたらしている」とする一方で、「不法投棄やポイ捨てされた多量のプラスチックごみが、生態系を含めた海洋環境の悪化など、様々な問題を引き起こしている」と指摘し、委員会として課題解決に向けた国

への要望・提言を行っていくとした。

委員会では、同問題に

対する要望・提言の取り

まとめに向けて、▽日本

におけるプラスチックご

みの現状と課題▽海洋プ

ラスチックごみ問題の現

状と課題の二つを柱と

した論点案を決定した。

会合では、東京農工大

学大学院農学研究環境

資源科学科教授の高田秀

重氏が「海洋プラスチック

汚染、プラスチックご



高田東京農工大教授



平尾室長（環境省）

地方自治体のプラスチック対策に望むこと（資料抜粋）

- ・削減>再使用>リサイクル>熱回収の考え方に基づいた施策
- ・プラスチックの使用削減を事業者を求める活動
 - ・レジ袋、ポリ袋、食品トレー、包装資材の使用抑制
 - ・対面販売、量り売り、持ち込み容器による販売の促進
 - ・食品トレーの素材変更（バイオマス素材、生分解性バイオマスプラ）
 - ・ガラス瓶リユース、天然素材（経木、竹など）包装の利用促進
- ・プラスチックの使用削減、循環型社会を活性化させる自治体の活動
 - ・マイボトル用給水器の設置
 - ・市民農園を活用したゴミ堆肥化、地産地消、天然素材包装との組み合わせ
- ・熱回収至上からの脱却
 - ・焼却炉の炉数の削減計画を立案
 - ・生ゴミ脱水と排水の下水道放流
- ・プラスチックごみ処分費、リサイクル費用を生産者に求める
 - ・拡大生産者責任（EPR）
- ・市民の意識の3R（削減ファースト）意識の啓発

み問題について」と題して講演を行った。

講演では、全世界に広がる危機的な状況にある海洋プラスチック汚染の現状を説明。陸上の廃棄物処理からもれたプラスチックが河川を通して海へ流入していることやマイクロプラスチックの食物連鎖がヒトを含む生態系全体に影響を及ぼしていることに触れ、プラスチック対策について地方自治体へのメッセージを述べた（右掲）。

また、環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室長の平尾禎秀氏が令和4年4月に施行の「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」について、法律作成に至る背景や経緯等について説明した。

※ 視察参加者 ※

▽大川裕委員長（小田原市）▽吉澤美樹郎副委員長（諏訪市）▽多田光廣副委員長（丸亀市）

神奈川・小田原 プラごみの現状と対応

現地調査 プラごみ問題特別委員会



大川委員長(小田原市)

プラごみ問題特別委員会は7月8日、プラスチックごみ(以下「プラスチック」)汚染の現状と課題について神奈川県小田原市を訪ねた。

冒頭、大川委員長が「日本三大深湾となる相模湾は特に水深が深く、約1500種類の魚が採れる小田原にとっては非常

守屋輝彦 小田原市長 あいさつ

守屋輝彦小田原市長が委員会視察を歓迎し、次のとおりあいさつした。

「現在、小田原市では、

神奈川県西地域の2市8町で連携して広域行政を行っているが、環境問題は単独で政策を行うには限界があり、市町村域を超えた相当広い範囲で行



守屋小田原市長



田中神奈川県西地域県政総合センター環境部長

赤ちゃん 鎌倉市由比ガ浜 クジラからプラごみ かながわプラごみゼロ宣言へ

相模湾における海洋プラスチックの現状と取組について、神奈川県西地域県政総合センター環境部長の田中晃氏から説明を受けた。

相模湾沿岸に流れ着く人



説明を受ける特委正副委員長

に大事な海。海洋プラスチックの問題は、非常に重大な問題として認識しており、皆様と一緒に取り組んで課題を解決していく方策を話し合っていきたい」とあいさつ。

続いて多田光廣副委員長(丸亀市)が「神奈川県および小田原市における事例をお伺いし、今後



多田副委員長(丸亀市)



由比ガ浜に打上げられた赤ちゃんクジラ
(写真提供:公益財団法人かながわ海岸美化財団)

工ごみは、ペットボトルや発泡スチロール、アルミ缶、スチール缶の金属類など様々だが、プラスチックが全体の約60%を占め、30年前と比較すると約1.5倍に増加している状況。また、プラスチックの約7割は内陸部から河川を通じて海岸に辿り着いている。

このような中、平成30年8月に鎌倉市由比ガ浜にシロナガスクジラの赤ちゃんが打上げられ、母乳しか飲まないクジラの胃からプラスチックが見つかり、非意図的に飲み込むほどプラスチックが海に流出していると推測された。神奈川県ではこの一件を「クジラからのメッセージ」と受け止め、同

9月に「かながわプラごみゼロ宣言」を発表。深刻化する海洋汚染、特にマイクロプラスチック問題からSDGs推進に取り組み、プラスチック製ストローやレジ袋の利用廃止・回収などを神奈川県から広げていくことで、2030年までのできるだけ早期に捨てられるプラスチックを目指した。

「かながわプラごみゼロ宣言」の発表以降、市町村や事業者と連携して、取組の輪を広げながら、意見交換を重ね、令和2

年3月に具体の行動計画となる「かながわプラごみゼロ宣言アクションプログラム」を策定した。アクションプログラムでは、リサイクルされずに廃棄されるプラスチックを指し、①ワンウェイ(使い捨て)プラの削減②プラごみの再生利用の推進③地域清掃活動などのクリーン活動の拡大等に取り組んでいる。

相模湾

区域を超えて海岸美化 かながわ海岸美化財団

海岸線は分断されないが、海岸線上の行政区域の境が障壁となり、海岸の清掃活動を行うに当たっては、作業面、費用面等で効率的ではなかった。

同県では、相模湾の海岸美化の推進に当たり、平成3年4月に県と相模湾沿岸の13市町で「かながわ海岸美化財団」を設立。横須賀市走水海岸から湯河原町湯河原海岸まで150キロにおよぶ海岸をカバーする日本唯一の海岸美化専門の公益財団法人で、財団の設立により行政区域を越えた一元的な清掃が実現した。海岸清掃費は神奈川県と沿岸13市町が折半で負担。他に類を見ない先進的なモデルケースとなっている。田中部長は説明の最後に「河川や道路に散乱したプラごみが海洋汚染の

原因となる。県民一人ひとりが自分事として捉え、行動変容に繋げることが、美しい川や海など自然環境を引き継ぐことにつながる」と強調した。

小田原市 ごみの分別改革

ごみ総量 25%減 プラごみ 1.5倍増

小田原市におけるプラごみ問題については、同市環境部環境政策課長の伊東康浩氏から説明を聞いた。



伊東小田原市環境部
環境政策課長

分別に増やし、他市に先駆けて指定袋制度を導入した。市民の環境に対する意識の高まりもあり、ごみの総排出量はその後約20年で25%（人口減少率9.4%）削減されたものの、ここ20年でペット

ボトルやトレー・プラスチック類の排出量は約1.5倍に増加している状況という。

排出されるプラごみについて同市では、▽ペッ

自然環境を活かし 森里川海 環境共生都市へ

豊かな自然環境、地域資源を最大限に活用し、環境課題の解決を経済の好循環にも繋げ、持続可能な環境共生都市を目指す小田原市では、特

にワンウェイプラスチックの使用削減を目的として、▽市施設13か所へのウォーターサーバーの設置▽イベント等での同市環境部作成マイボトルの配布―などによりプラごみ削減に取り組んでいるほか、ごみ情報紙「ゴミダス」の全戸配布により、市民と一緒にごみ問題や環境問題を考える啓発運動を展開している。

有する自治体だけでなく陸域の自治体も含めた県西地域2市8町と連携して共同宣言を行い、①ワンウェイプラの削減②プラごみの適正排出③クリーン活動に参加しよう―の3つの取組を柱に活動を展開している。

令和4年2月には「プラごみ0が海を育む」をキャッチフレーズに海を

実施している。このほか年2回、市内主要河川河口の海岸漂着マイクロプラスチック調査を独自に実施している。

小田原市の概要

小田原市は、首都圏でありながらコンパクトに森里川海とが「ひとつらなり」となった、豊かな自然環境を有する神奈川県西地域の中心都市。市域南部は相模湾に面し、温暖な気候。市域西部は箱根町に接しており、箱根外輪山の山林斜面が広がり、市域の4割は山林という地形。市の中央には南北に酒匂川（さかわがわ）が流れており、その両岸に広がる平野の北部には農地が多く、南部は住宅地、商業エリアが形成されている。人口18万7564人、面積113.60km²



県西地域 2市8町…小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町
相模湾沿岸 13市町…横須賀市、三浦市、葉山町、逗子市、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市、大磯町、二宮町、小田原市、真鶴町、湯河原町

トボトル、トレーパー包装は再資源化▽製品プラ類は溶解スラグ化、焙焼によるサーマルリサイクル化▽ビデオテープは路盤材、代替燃料として再資源化を図っている。



吉澤副委員長（諏訪市）

最後に吉澤副委員長

（諏訪市）が「プラごみ問題は、源流となる山間地も含めて県をも跨いで対応すべき問題。視察を通じて課題解決に向けた一歩を踏み出す道筋となった」と感謝の意を述べた。





本会役員

横浜市会議事堂を視察

本会の正副会長・監事・部会長は7月4～5日、横浜市会議事堂への視察を実施した。

冒頭、横浜市会議長である清水富雄本会会長が「全国各地の議長が横浜市の会議事堂へ視察に来ることを会長就任以来ずっと待ち望んでいた。本会役員同士、顔の見える関係構築、意見を忌憚なく交わすことが、本会の活動の活性化、そして地方自治の発展に資するものと確信している」と歓迎の言葉を述べた。続いて、佐藤祐文相談役（横浜市議員、第60代本会会長）、山中竹春横浜市長から歓迎あいさつがあった。



横浜市会議事堂について解説する清水会長

視察では、清水会長が横浜市会議事堂の特色について説明。令和2年6月に供用開始した横浜市新庁舎は、二元代表制の象徴として行政部分と議会部分が分かれたデザイン。議事堂は「開かれた議会の実現」をコンセプトに、親

子傍聴室や授乳室、市会PRコーナーが設けられているほか、市会図書室は市民も利用可能であり、より議会へ関心を持つための取組を行っている。

また、免震層の上部に本会議場を配置することで、災害時も議会機能を継続可能な構造となっている。

説明の後、視察団は清水会長、佐藤相談役らの案内のもと、議場や傍聴席など議事堂内部の各所を見学した。

5日には、令和9年3～9月に米軍上瀬谷通信施設跡（横浜市瀬谷区・旭区）で開催予定の



横浜市新庁舎（手前部分が議事堂）

「2027年国際園芸博覧会」についての説明が一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会からあり、また、YOKOHAMA AIRCABIN（みなとみらい地区の桜木町駅と運河パーク駅を結ぶ都市型ロープウェイ）について横浜都市整備局から説明を受け、乗車視察を行ったほか、横浜ベイブリッジ併設のスカイウォークを視察した。

▽副会長Ⅱ篠原藤雄（岩見沢市）、高岩勝人（金沢市）、田中晋（柏市）、浅野裕司（岐阜市）、笹田卓（浜田市）、原亨（熊本市）

▽監事Ⅱ菅原由和（奥州市）、富安輝雄（向日市）、

▽部会長Ⅱ田塚不二男（根室市）、塩田義智（郡山市）、須田浩和（水戸市）、寺田幹根（磐田市）、

山本尚生（大阪狭山市）、荒井秀行（境港市）、宮内

春雄（徳島市）、久高友弘（那覇市）



YOKOHAMA AIR CABIN



あいさつする石橋会長
(相馬市)



あいさつする立谷市長
(相馬市)

正副会長・監事・相談役会議 相馬市で開催 要望書決定

高速協
活動を維持するための大

高速道路が我が国の経済
活動を維持するための大

活動維持するための大
動脈としての重要な役割
を果たしていることや頻
発・激甚化する自然災害
に対して、避難や救急救
命・復旧活動等の役割を
果たし「命の道」として
の機能を発揮しているこ
とから、①建設促進②安
全対策③高速道路の機能
向上と利便性の拡大④料
金制度の4項目を要望
することを決定(要望書
は本会HPに掲載)。要望
書は、加盟318市に配
布し、地元選出国會議員
等へ要望活動を行うこと
が併せて了承された。ま
た、翌8日には東日本大
震災の被災地視察等を行
い、犠牲となった方々を
追悼する伝承鎮魂記念館
を訪問、慰霊碑に献花し、
黙祷を捧げた。

石橋会長からのあいさ
つに続き、開催市の立谷

秀清市長か
らのあいさ
つがあった。
協議では
「高速道路
建設・整備
促進等に関
する要望書
(案)」につ
いて、新型
コロナウイ
ルス感染症
が長期にわ
たり国民生
活を脅かす中においても、
高速道路が我が国の経済

催した。

活動維持するための大
動脈としての重要な役割
を果たしていることや頻
発・激甚化する自然災害
に対して、避難や救急救
命・復旧活動等の役割を
果たし「命の道」として
の機能を発揮しているこ
とから、①建設促進②安
全対策③高速道路の機能
向上と利便性の拡大④料
金制度の4項目を要望
することを決定(要望書
は本会HPに掲載)。要望
書は、加盟318市に配
布し、地元選出国會議員
等へ要望活動を行うこと
が併せて了承された。ま
た、翌8日には東日本大
震災の被災地視察等を行
い、犠牲となった方々を
追悼する伝承鎮魂記念館
を訪問、慰霊碑に献花し、
黙祷を捧げた。



宿毛市役所新庁舎
(写真提供=宿毛市)



議場
(同左)

新庁舎落成

▽宿毛市(高知県)

〒788-8686

宿毛市希望ヶ丘1

TEL 0880-62-1257

FAX 0880-62-1275

議会フロアは4階。傍
聴席には、車いす席や磁
気ループを設置するなど
バリアフリーに対応し、
災害時には一時避難所に
機能転換可能となってい
る。また、電子採決シス
テムを導入している。

共同編集：全国市議会議長会・全国町村議会議長会
月刊 地方議会人 発行の中央文化社がお勧めする

「議会で役立つ」専門図書

Chuobunkasha.co.ltd



市町村議員のための わかりやすい新地方公会計

編著 青山公会計公監査研究機構

2,640円(税込・送料別) A5判 232頁

書籍の概要

予算や各種施策・事業のあり方を議会で議論する際に、市町村議員が新地方公会計の制度を理解しておくことは重要となります。本書は、新地方公会計の基本的知識、具体的事例をわかりやすく解説する書籍です。議会ですぐに活用できる、全ての議員にとってまさに必読の一冊です。巻末では議会・自治体での審議事例のポイント解説も収録！



広報で差がつく議会力 市町村議会広報クリニック

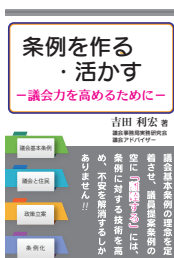
編著 芳野政明(広報コンサルタント)

吉村 潔(エディター・広報アナリスト)

2,530円(税込・送料別) A5判 224頁

書籍の概要

議会の日々の活動を伝え、住民とのコミュニケーションを担うのが議会広報です。本書は全国から寄せられた市町村議会広報30紙を厳選し、改善点などを論評したクリニックとともに紹介。巻末には編著者による特別対談「読みたくなる議会広報紙のつくりかた」を収録。「住民に読んでもらえる議会だよりとはどのようなものか」を論点に、編集やデザインの技法や議会広報の役割、理念なども語り合っています。



条例を作る・活かす — 議会力を高めるために —

吉田利宏 著 議会事務局実務研究会
/議会アドバイザー

2,640円(税込・送料別) A5判 266頁

書籍の概要

「議会が変わった」、「議会を見直した」と住民が実感できる改革につなげるためには、議会の様々なルールを見直し、議会基本条例の理念に基づく改革を定着させなければなりません。本書は、議会アドバイザーであり、長年、衆議院法制局で法律案や修正案の作成に参画した著者が「わかりやすく」かつ「具体事例」を交えながら政策を形作り、そして、その政策を条例化する方策を解説します。

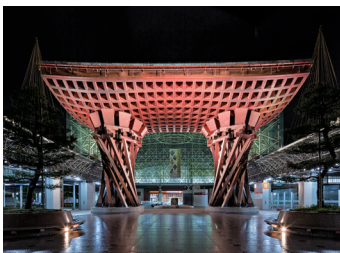
第 1 回

金 沢 市

副会長市紹介



市 章



金沢駅前の鼓門
(写真提供＝金沢市)

【市の概要】

▽人口 46万379人

(令和 4 年 6 月 1 日)

▽面積 468.79km²

▽歴史・沿革 天正 11 年

(1583 年)、前田利家が金沢城へ入り、金沢は加賀百万石の城下町として繁栄した。明治 22 年 4 月市制施行。太平洋戦争でも戦災を受けず、城下町の街並み、文化や伝統を受け継ぎ、石川県の県庁所在地として発展を続けた。平成 8 年 4 月中核市に移行し、平成 21 年に「歴史都市」、「創造都市」に認定された。平成 27 年



高岩勝人議長

議長の話

には念願の北陸新幹線金沢開業が実現した。
▽シンボル 市章は加賀藩前田家の紋章梅鉢の輪郭内に、小篆の「金」の文字を配したものだ。
【議会の概要】
▽議員定数 38 人(現在男性 30 人、女性 7 人)

人に人格があるように、都市にも都市格というものがあるとするならば、金沢市が目指す方向性は加賀百万石としての歴史・伝統・学術・文化を兼ね備えた活力と風格のある都市です。その実現

▽前回選挙 平成 31 年 4 月 21 日。立候補 43 人。投票率 36.33%。
▽議会トピックス 金沢

で藩制時代から培われた食文化の持続的な発展を目的に「金沢の食文化の継承及び振興に関する条例」を議会から提案し、可決した。また、議会運営の効率化を目的にタブレットを導入し、議案等の審査環境が向上した。

のために最も重要なことは、愛郷心の醸成です。金沢市では子供たちに対するふるさとの偉人教育を積極的に行うとともに、先人が築いた街並みや建造物の保全のために、高度な技術を持つ職人による「金沢職人大学校」を設立し、技術の継承と育成にも努めてきました。これらの取組は、行政視察でご覧になれますので、皆様ぜひ金沢市へお越しください。心から歓迎いたします。

議会人事

議長

▽名古屋 岩本たかひろ

- | | |
|-----------------|------------------|
| ▽坂出 楠井常夫(5.19) | ▽徳島 宮内春雄(6.16) |
| ▽目黒 宮澤宏行(5.25) | ▽港 ゆうきくみこ(6.17) |
| ▽荒川 志村博司(5.27) | ▽西宮 坂上明(6.17) |
| ▽大阪 大橋一隆(5.27) | ▽西尾 奥石修(6.20) |
| ▽飯塚 秀村長利(5.27) | ▽周南 鈴木正章(6.22) |
| ▽都留 天野利夫(6.22) | ▽白山 土屋晴巳(6.23) |
| ▽川越 小野澤康弘(6.22) | ▽南島原 吉田幸一郎(6.24) |
| ▽熊谷 福田勝美(6.22) | ▽市原 田尻貢(6.30) |
| ▽川口 杉本佳代(6.22) | ▽藤枝 遠藤久仁雄(5.9) |
| ▽鴻巣 野本恵司(6.22) | ▽名古屋 金庭宜雄(5.19) |
| ▽深谷 小嶋隆(6.22) | ▽坂出 東原章(5.19) |
| ▽瑞穂 若井千尋(6.22) | ▽目黒 佐藤ゆたか(5.22) |
| ▽吹田 坂口妙子(6.22) | ▽荒川 松田智子(5.27) |
| ▽松山 渡部克彦(6.22) | ▽都留 西崎昭明(5.27) |
| ▽敦賀 宮本吉秀(6.23) | ▽大阪 谷垣喜一(6.22) |
| ▽尾鷲 小川公明(6.26) | ▽川越 高橋剛(6.22) |
| ▽吉野川 山添純二(6.26) | ▽熊谷 山下一男(6.22) |
| ▽練馬 藤井たかし(6.27) | ▽鴻巣 永沼博昭(6.22) |
| ▽所沢 大石健一(6.27) | ▽深谷 湯本哲昭(6.22) |
| ▽行橋 小原義和(6.27) | ▽島田 清水唯史(6.22) |
| ▽石巻 水上隆光(6.27) | ▽瑞穂 松野貴志(6.22) |
| ▽足立 安倍太郎(6.28) | ▽吹田 澤田直己(6.22) |
| ▽野田 工藤哲也(6.28) | ▽松山 角田敏郎(6.22) |
| ▽鴨川 山口克己(6.28) | ▽姫路 宮下和也(6.23) |
| ▽京丹後 谷津伸幸(6.28) | ▽備前 森本洋子(6.23) |
| ▽熊本 原亨(6.28) | ▽敦賀 浅野好一(6.23) |
| ▽神戸 安井俊彦(6.28) | ▽吉野川 仲明(6.23) |
| ▽江津 藤間義明(6.28) | ▽柳沢よしみ(6.23) |
| ▽奈良 北良晃(6.28) | ▽阿佐勝彦(6.23) |

副議長

▽藤枝 遠藤久仁雄(5.9)

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| ▽市原 田尻貢(6.30) | ▽高知 鍛冶恵巳子(6.14) | ▽石巻 奥山浩幸(6.8) |
| ▽名古屋 金庭宜雄(5.19) | ▽江津 岡崎邦子(6.14) | ▽足立 たがた直昭(6.8) |
| ▽坂出 東原章(5.19) | ▽越谷 小林豊代子(6.16) | ▽和歌山 中塚隆(6.9) |
| ▽目黒 佐藤ゆたか(5.22) | ▽奈良 伊藤剛(6.16) | ▽三浦 小林直樹(6.10) |
| ▽荒川 松田智子(5.27) | ▽徳島 齋藤智彦(6.16) | ▽野田 小椋直樹(6.10) |
| ▽都留 西崎昭明(5.27) | ▽古河 稲葉貴大(6.17) | ▽鴨川 川股盛二(6.10) |
| ▽大阪 谷垣喜一(6.22) | ▽鉾田 根寄真(6.17) | ▽京丹後 水野孝典(6.10) |
| ▽川越 高橋剛(6.22) | ▽西宮 山口英治(6.17) | ▽神戸 坊池正(6.13) |
| ▽熊谷 山下一男(6.22) | ▽広島 母谷龍典(6.17) | ▽尾道 山戸重治(6.13) |
| ▽鴻巣 永沼博昭(6.22) | ▽甲府 中村明彦(6.20) | ▽京丹後 水野孝典(6.10) |
| ▽深谷 湯本哲昭(6.22) | ▽西尾 磯部雅弘(6.22) | ▽野田 小椋直樹(6.10) |
| ▽島田 清水唯史(6.22) | ▽東広島 玉川雅彦(6.23) | ▽鴨川 川股盛二(6.10) |
| ▽瑞穂 松野貴志(6.22) | ▽周南 福田健吾(6.23) | ▽京丹後 水野孝典(6.10) |
| ▽吹田 澤田直己(6.22) | ▽小松 片山瞬次郎(6.24) | ▽神戸 坊池正(6.13) |
| ▽松山 角田敏郎(6.22) | ▽南島原 田中次廣(6.24) | ▽尾道 山戸重治(6.13) |
| ▽姫路 宮下和也(6.23) | ▽富士 杉山諭(6.29) | ▽京丹後 水野孝典(6.10) |
| ▽備前 森本洋子(6.23) | ▽市原 伊藤重明(6.30) | ▽野田 小椋直樹(6.10) |
| ▽敦賀 浅野好一(6.23) | ▽白石 菊地正幸(4.1) | ▽鴨川 川股盛二(6.10) |
| ▽吉野川 仲明(6.23) | ▽能美 森直樹(4.1) | ▽京丹後 水野孝典(6.10) |
| ▽柳沢よしみ(6.23) | ▽越前 蒲久美子(4.1) | ▽野田 小椋直樹(6.10) |
| ▽阿佐勝彦(6.23) | ▽所沢 梅崎恭子(4.1) | ▽鴨川 川股盛二(6.10) |
| ▽柳沢よしみ(6.23) | ▽神戸 村井秀徳(4.1) | ▽京丹後 水野孝典(6.10) |
| ▽阿佐勝彦(6.23) | ▽和歌山 中西太(4.1) | ▽野田 小椋直樹(6.10) |
| ▽柳沢よしみ(6.23) | ▽飯塚 黒川泰雅(4.1) | ▽鴨川 川股盛二(6.10) |
| ▽阿佐勝彦(6.23) | ▽奈良 二石記人(4.1) | ▽京丹後 水野孝典(6.10) |